

データ移行作業について

はじめに

労組ポータル - N生協労組 - 部署ライブラリへの手動「パターン④」によるデータ移行で、多くのファイルが移行できないという課題が11/18に発生しました。この事によりデータ移行作業方法について、以下のパターンでの推測される懸念点の洗い出し結果は、以下の通りです。

データ移行の作業パターンは、以下が想定されます。

1. ファイルサーバー ⇒ SPOドキュメントライブラリ

ファイルをそのままドキュメントライブラリへデータ移行

2. NotesDB ⇒ SPOドキュメントライブラリ

これは、移行ツールにより、提供できる機能が異なり、ページング仕様のNotesDBは基本リスト形式での表示ですが、

- ・投稿された記事への添付ファイル と 拡張リッチテキスト領域に追加された添付されたファイル

- ・リスト形式をPDF化したドキュメント

へのデータ移行が選択できます。

3. NotesDB ⇒ SPOリスト

ページング仕様のNotesDBをリスト形式でのデータ移行

4. SPオンプレ ⇒ SPオンライン

- ・サイトのデータ移行

- ・互換のあるリストやライブラリのデータ移行

5. SPO基盤へのデータ移行について

(1) SPOへの移行イメージ図

(2) NoteaDB移行用コンテンツ枠作成イメージ図

(3) Tドライブ移行用コンテンツ枠作成イメージ図

(4) NotesDB ⇒ 部署リスト/部署ライブラリ データ移行イメージ図

(5) Tドライブ ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図

(6) NotesDB : PDF化しながらデータ移行 ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図

(7) NotesDB ⇒ 添付ファイルの掃出し ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図

(8) 添付ファイル保存ツール仕様

データ移行作業について

1. ファイルサーバー ⇒ SPOドキュメントライブラリ パターン

ファイルをそのままドキュメントライブラリへデータ移行パターンです。

対象データ別 移行作業パターン	費用	欠点	利点
① データ移行ツールの活用 サードパーティ社製 「Quest社、AvePoint社など」	有償	・使用コストが高い ・移行用サーバーの準備が必要 ・移行ツールのインストールが必要 ・ツール使用方法の理解が必要	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、処理中も常時監視は不要
② データ移行ツールの活用 SPMT(MS社無償提供ツール) の活用	無償	・移行端末にインストールが必要 ・機能拡張の観点から、定期的にプログラムが更新	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・プロキシ経由でなく圧縮転送のため移行時間が短い ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、処理中も常時監視は不要
③ 手動移行 OneDriveの活用 ファイルサーバー ⇒ OneDrive(SPO同期設定)	無償	・OneDriveの同期設定が必要 ・OneDriveへは手動でファイル複写作業が必要 ・OneDriveは個人用スペースで、セキュリティ面での管理が必要 ・同期はOneDrive仕様依存	・ログは出力されない⇒移行エラー対応が不可能 ・OneDriveへのファイル複写後、OneDriveの同期機能なので常時監視は必要
④ 手動移行 ドラック＆ドロップで対応 ファイルサーバー ⇒ SPOライブラリ	無償	・一度に選択できるファイル数は制限有り ・回線(通信)状況により、複写エラーとなる場合がある	・ログは出力されない⇒移行エラー対応が不可能 ・処理中は、基本、常時監視は必要

データ移行作業について

2.NotesDB ⇒ SPOドキュメントライブラリ パターン

これは、移行ツールにより、提供できる機能が異なり、ページング仕様のNotesDBは基本リスト形式での表示ですが、投稿された記事への添付ファイルと 拡張リッチテキスト領域に追加された添付されたファイル、リスト形式をPDF化したドキュメントへのデータ移行が選択できます。

対象データ別 移行作業パターン	費用	欠点	利点
① データ移行ツールの活用 サードパーティ社製 「Quest社、AvePoint社など」	有償	・使用コストが高い ・移行用サーバーの準備が必要 ・移行ツールのインストールが必要 ・ツール使用方法の理解が必要	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、処理中も常時監視は不要 ・Notes表示イメージでPDF出力が可能
② Notes添付ファイル吐出しツール ⇒ MS社無償提供 データ移行ツールの活用	有償 (安価) 無償	・社内でNotes添付ファイル吐出しツールの作成が可能(割安) ・吐出し先環境の準備が必要 ・移行端末にインストールが必要 ・機能拡張の視点から、定期的にプログラムが更新	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・吐出し先PCとSPO間はプロキシ経由でなく圧縮転送のため移行時間が短い ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、処理中も常時監視は不要
③ Notes添付ファイル吐出しツール ⇒ 手動移行 OneDriveの活用ファイルサーバー ⇒ OneDrive(SPO同期設定)	無償	・社内でNotes添付ファイル吐出しツールの作成が可能(割安) ・OneDriveの同期設定が必要 ・OneDriveへは手動でファイル複写作業が必要 ・OneDriveは個人用スペースで、セキュリティ面での管理が必要 ・同期はOneDrive仕様依存	・ログは出力されない⇒移行エラー対応が不可能 ・OneDriveへのファイル複写後、OneDriveの同期機能なので常時監視は必要
④ Notes添付ファイル吐出しツール ⇒ 手動移行 ドラック＆ドロップで 対応 ファイルサーバー ⇒ SPOライブラリ	無償	・社内でNotes添付ファイル吐出しツールの作成が可能(割安) ・一度に選択できるファイル数は制限有り ・回線(通信)状況により、複写エラーとなる場合がある	・ログは出力されない⇒移行エラー対応が不可能 ・処理中は、基本、常時監視は必要

データ移行作業について

3. NotesDB ⇒ SPOリスト パターン

ページング仕様のNotesDBをリスト形式でのデータ移行パターンです。

対象データ別 移行作業パターン	費用	欠点	利点
① データ移行ツールの活用 サードパーティ社製「Quest社、 AvePoint社など」	有償	・使用コストが高い ・移行用サーバーの準備が必要 移行ツールのインストールが必要 ・ツール使用方法の理解が必要	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、 処理中も常時監視は不要 ・Notes表示イメージでPDF出力が可能
② MS社無償提供ソース(オンプレ版)を オンライン版の改修したツールでの データ移行	有償 (安価)	・MS改改版「c#.Net」をコンシューマーより安価でソース入手し、社内で改版しツールの作成が可能(割安) CISブランドツールになる ・C#.Net開発者が必要(2週間) ・移行端末にインストールが必要 ・機能拡張の視点から、定期的にプログラムが更新	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、 処理中も常時監視は不要

4. SPオンプレ ⇒ SPオンラインパターン

サイトのデータ移行、互換のあるリストやライブラリのデータ移行のパターンです。

対象データ別 移行作業パターン	費用	欠点	利点
① データ移行ツールの活用 サードパーティ社製「Quest社、 AvePoint社など」	有償	・使用コストが高い ・移行用サーバーの準備が必要 移行ツールのインストールが必要 ・ツール使用方法の理解が必要	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、 処理中も常時監視は不要
② データ移行ツールの活用 SPMT(MS社無償提供ツール)の 活用	無償	・移行端末にインストールが必要 ・機能拡張の視点から、定期的にプログラムが更新	・ログが出力される⇒移行エラー対応が可能 ・登録日時、更新日時が移行可能 ・ユーザーマッピングが可能 ・プロキシ経由でなく圧縮転送のため移行時間が短い ・回線トラフィックを意識した夜間実行が可能であり、 処理中も常時監視は不要

SPO基盤への移行について

5. SPO基盤への移行について

SPOサイト構築で作成するコンテンツは、NotesDBデータ移行用枠とTドライブデータ移行用枠を準備する必要があります。
現在想定されているコンテンツ枠(部署リスト・武将ライブラリ、その他のリストやライブラリ)の総数は以下の通りであり、1/21迄に総べての作業を完了するのは非現実的なので、優先順位をつけて何を何時迄にユーザーに公開していくのかの詳細スケジュールの再検討が必要です。

① NotesDB ⇒ SPOコンテンツ枠

部門ポータル数：25、 部署サイト数：222 a) 部門ポータル数：25、 部署サイト数：222
コンテンツ(リストやライブラリ)作成本数：379 b) コンテンツ(リストやライブラリ)作成本数：379

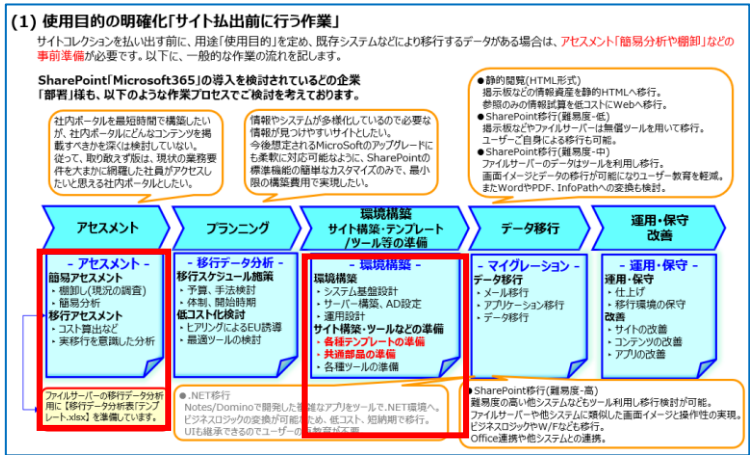
- ・コンテンツ枠のみ作成
- ・コンテンツ枠のみ作成コンテンツ枠+データ移行
※上記コンテンツ枠は、機能追加申請方式により、「多段階承認ワークフロー」と「公開対象先設定」機能の追加対応を検討中。
- ・コンテンツ枠「個別機能や専用のワークフローの組込み版」
- ・コンテンツ枠「個別機能や専用のワークフローの組込み版」+データ移行

② Tドライブ ⇒ SPOコンテンツ枠

a) 部署ライブラリ数：205
NotesDB ⇒ SPOコンテンツへのデータ移行数：?? 容量:5TB

【イメージ目次】

- (1) SPOへの移行イメージ図
- (2) NoteaDB移行用コンテンツ枠作成イメージ図
- (3) Tドライブ移行用コンテンツ枠作成イメージ図
- (4) NotesDB⇒部署リスト/部署ライブラリ データ移行イメージ図
- (5) Tドライブ⇒部署ライブラリ データ移行イメージ図
- (6) NotesDB：PDF化しながらデータ移行 ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図
- (7) NotesDB ⇒ 添付ファイルの掃出し ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図
- (8) サイトに作成したコンテンツ(部署リスト/部署ライブラリ)へ承認WF & 公開対象先設定機能の追加イメージ図

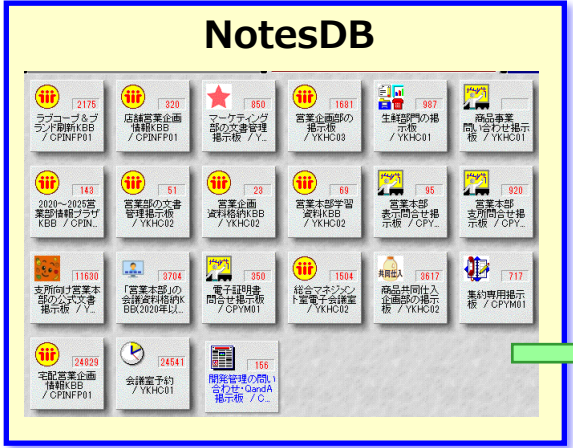


SPO基盤へのデータ移行について

(1) SPOへの移行イメージ図

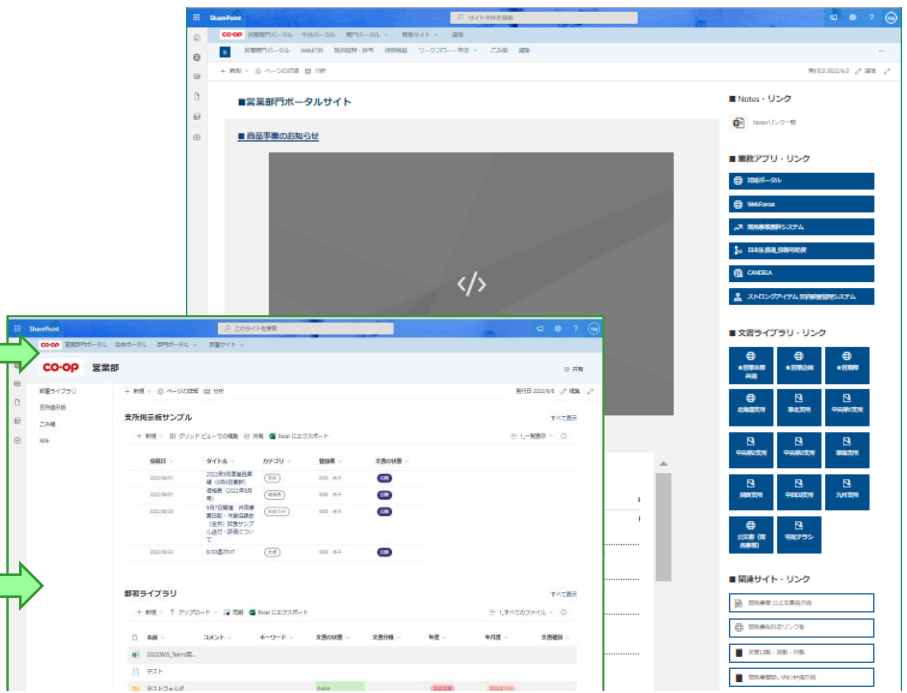
「移行元イメージ」

移行先(全体ポータル/部門ポータル/部署サイト/各種コンテンツイメージ)



Notes⇒コンテンツ

フォルダー⇒フォルダー



■ 移行パターン毎の長所・短所

- ① NotesDB ⇒ Sp部署リスト 長所：ほぼNotesDBと同じイメージで移行可能
- ② NotesDB ⇒ Sp部署ライブラリ 短所：添付ファイルの属性(プロパティ)が移行されない
★その後、Sp部署ライブラリ⇒Tドライブ用部署ライブラリへの移行。
SPオンライン⇒SPオンラインのデータ移行ツールはない。
- ③ NotesDB ⇒ PDFファイル ⇒ Sp部署ライブラリ
短所：添付ファイルは単一フォルダーに格納され、同一ファイルは最後の移行されたファイル 1 つのみが置換格納される
- ④ NotesDB ⇒ 添付ファイルの掃き出し ⇒ SpTドライブフォルダー仮想への部署ライブラリ
短所：添付ファイルの属性(プロパティ)が移行されない。データ移行ツールSPMT(無償)あり。 9/末迄にツールは準備予定。
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepointmigration/introducing-the-sharepoint-migration-tool>
★但し、フォルダーマッピング設定もあるので、部署の方々には荷が重すぎる。

SPO基盤へのデータ移行について

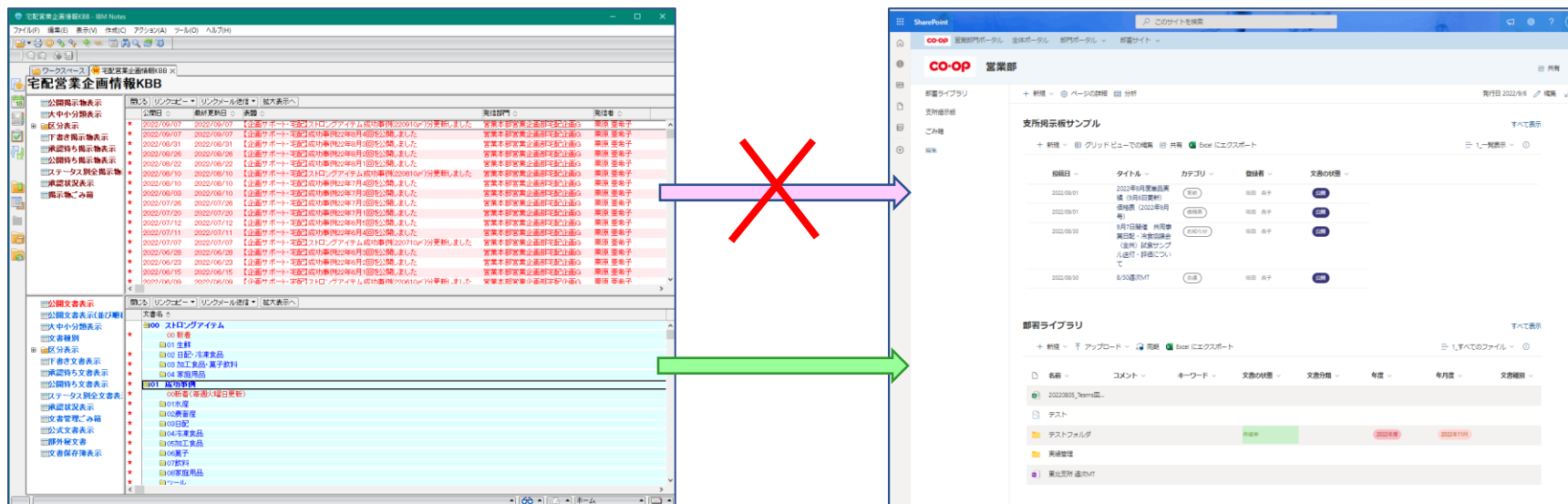
(2) NoteaDB移行用コンテンツ枠作成イメージ図

NotesDB ⇒ 部署リスト/部署ライブラリ は、1対1とし、NotesDBのアセスメント結果により、移行先枠を準備する

※NotesDBの上段の掲示板は、基本移行対象外です。但し、掲示板部しか使っていないNotesDBはこの限りではありません。

※登録件数は多いNotesDBは、SPO側の複数コンテンツへの移行検討が必要です。

- ・標準提供されたKBBテンプレートで作成されたNotesDB「多段階WF + 公開対象先設定機能の付与有り」
 - ・標準提供されたNotesテンプレートで作成されたNotesDB
 - ・テンプレートに固有機能を付与した専用のNotesDB
 - ・テンプレートに固有機能と承認WFやメール配信などを付与した高度な専用のNotesDB
- 上記の内容を判断し、コンテンツ枠を作成する必要があります。



◆準備しているSPOコンテンツのテンプレート

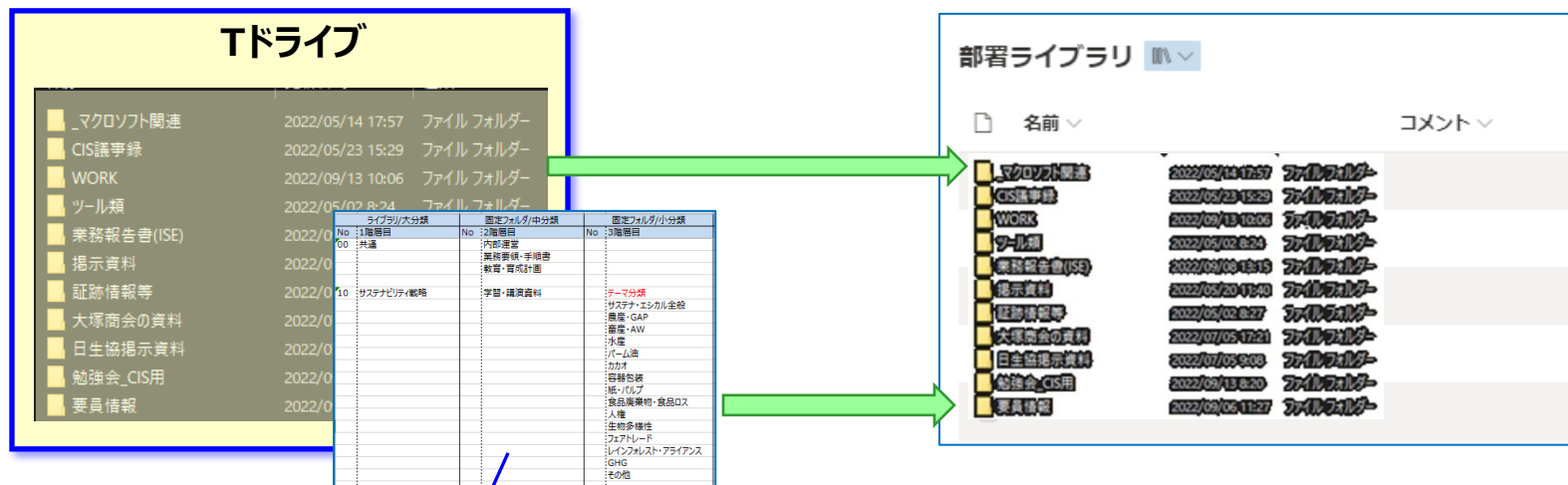
「部署リスト」「部署ライブラリ」「規定」「FAQ」「問合せ管理」「公文書管理」「掲示板」「会議資料」
「汎用リスト」「汎用ライブラリ」「緊急のお知らせ」

※作成した部署ライブラリなどのバージョン管理は初期値500であり、ブラウザの設定は、最小100 世代となっている。
バージョン管理不要なコンテンツは、「SharePoint Designer2013」でバージョン管理無しの設定が必要。

SPO基盤へのデータ移行について

(3) Tドライブ移行用コンテンツ枠作成イメージ図

Tドライブ ⇒ 部署ライブラリ は、任意のフォルダ指定でフォルダー配下のドキュメントを移行する目的で作成する。
 フォルダー階層は、ワークで確定された3階層のEXCEL資料を基に任意ドキュメントへフォルダーを作成する
 但し、移行先の部署ライブラリの作成後、フォルダー階層を作成するためのフォルダー階層をテキスト形式で準備する必要があり、
 フォルダー作成はPowerShellを使っても1つのコンテンツ枠作成に要する時間は、1時間程度は必要。
 ※SP標準のフォルダーの作成なので属性(プロパティ:分類や区分情報)列は、作成できませんので、ご注意ください。
 ※現在想定される部署ライブラリの本数は 205 であるため、205時間相応の作業工数は必要となる事を留意しておく事が必要です。



- フォルダー管理ワークで検討したフォルダー階層を任意の部署ライブラリ(ドキュメントライブラリ)にフォルダーを一括で作成する手順

①フォルダー階層の検討結果を以下の書式でテキスト形式ファイルを準備する。「例:FolderList01.txt」

```

フォルダー-01¥
フォルダー-01¥フォルダー-A
フォルダー-02¥フォルダー-X¥フォルダー-ZZ
  
```

※フォルダーの区切り記号は半角「¥」とする。

- ②PowerShellを起動して以下のコマンドを実施します。

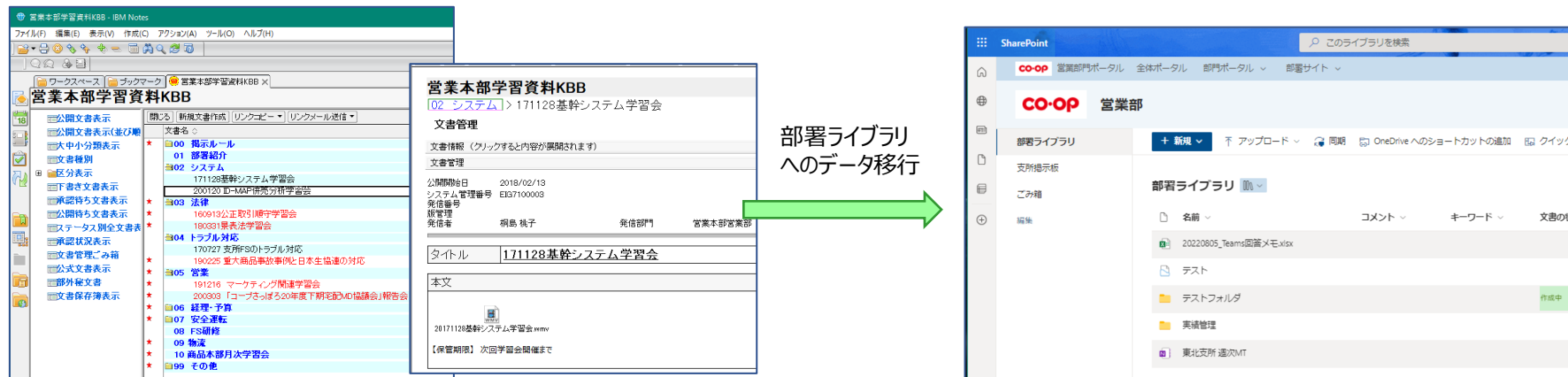
```
Get-Content IfolderList01.txt | %{ New-Item ($_.ToString()) -ItemType Directory -Force }
```

※上記の「:FolderList01.txt」が先ほど作成したテキストファイルになります。

SPO基盤へのデータ移行について

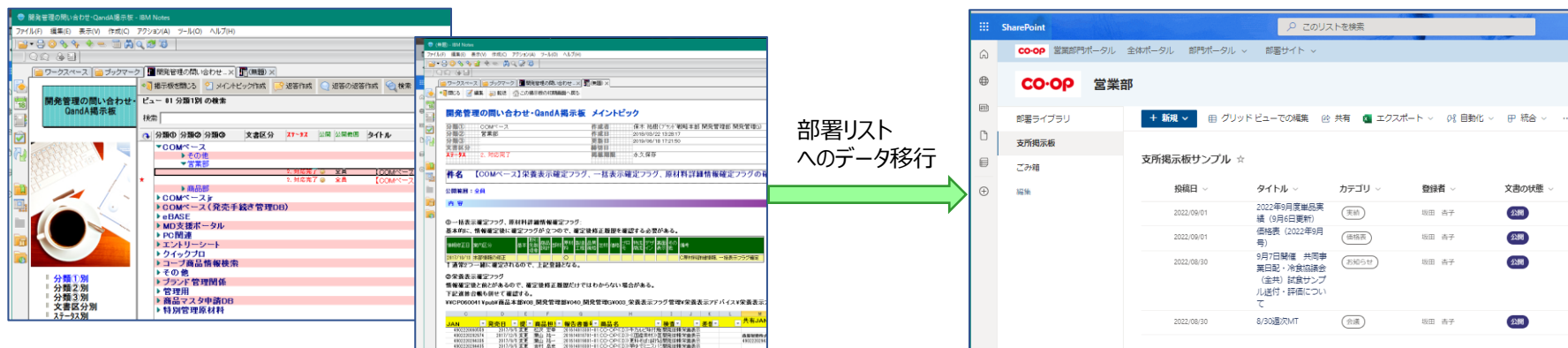
(4) NotesDB ⇒ 部署リスト/部署ライブラリ データ移行イメージ図

NotesDBの投稿した内容を前件開いて確認し、本文に文書や画像が貼り付けられていない場合のみ、部署ライブラリへの移行が可能と判断します。これは、本文に記載された内容の欠落を防止する作業ですが、前件かの確認作業は非現実的なので、移行対象先の選定は、CISでは決定できないため、事務局または部署の方々にお問い合わせする内容となります。



利点：NotesDBの表示イメージと同じ内容でSPO部署リストへの移行が可能です。

※データ移行1回対応なので、記事の属性(プロパティ:分類や区分情報)は移行されますが、フォルダーの属性(プロパティ:分類や区分情報)は移行されません。



欠点：NotesDBの本文や属性(プロパティ:分類や区分情報)は移行したドキュメントには反映されません。

SPO基盤へのデータ移行について

(5) Tドライブ ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図

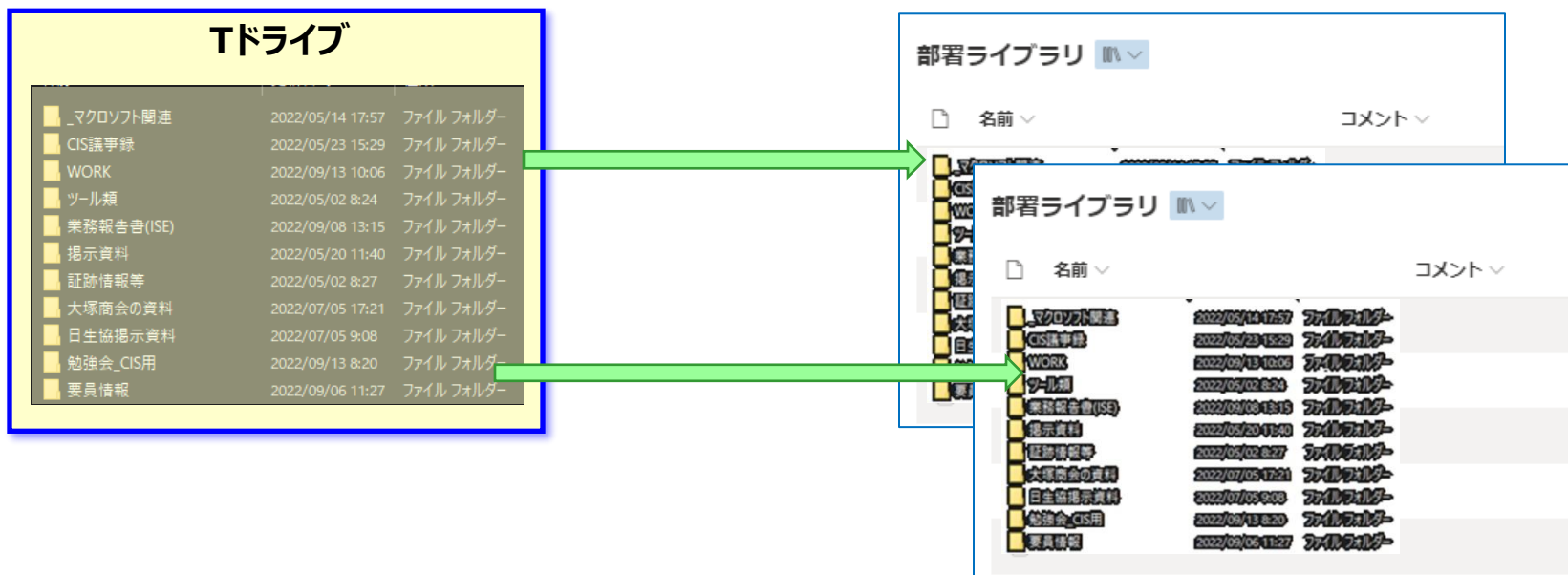
保管しているドキュメントのSPO部署ライブラリへのデータ移行は、基本、手動での移行となります。

但し、手動での移行は、登録日時・更新日時は移行操作日時なり、登録者・更新者も移行操作された方が設定されます。

この事を回避する方法として、Microsoftの無償提供のデータ移行ツール(SPMT)を使ってデータ移行する手段がありますが、移行元と移行先のフォルダーマッピング作業が伴うため、実務を抱えている部署の方々には荷が重すぎると推測します。

【SharePoint 移行ツールの概要 (SPMT)】

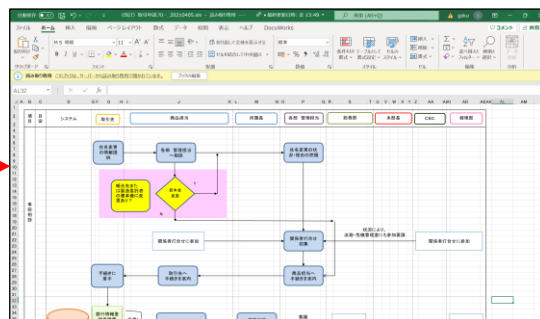
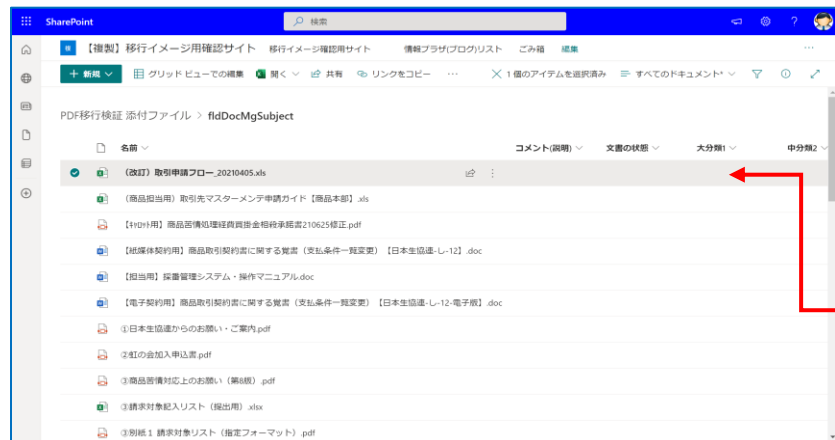
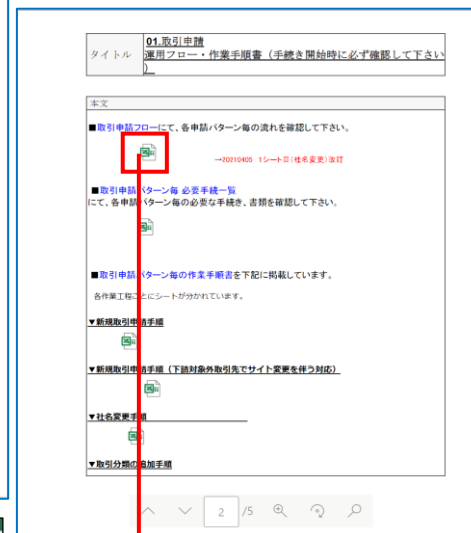
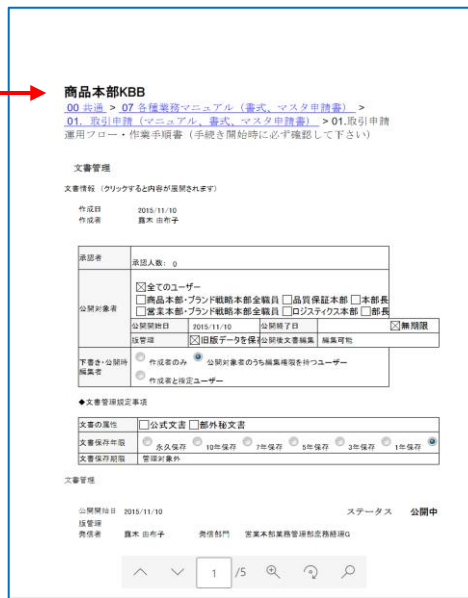
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepointmigration/introducing-the-sharepoint-migration-tool>



SPO基盤へのデータ移行について

(6) NotesDB : PDF化しながらデータ移行 ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図

データ移行ツール「クエスト社製」の機能を使って、NotesDBの投稿データをPDF化しながら、SPO部署ライブラリへデータ移行するイメージです。NotesDBの掲載イメージはPDF化でほぼ類似した書式で作成されますが、添付ファイルは別のドキュメントライブラリへ出力されますが、NotesDBに添付したファイル名で同名がある場合は、最後に移行したファイルに置換される事になるため、留意しての活用をお勧めします。



SPO基盤へのデータ移行について

(7) NotesDB ⇒ 添付ファイルの掃出し ⇒ 部署ライブラリ データ移行イメージ図

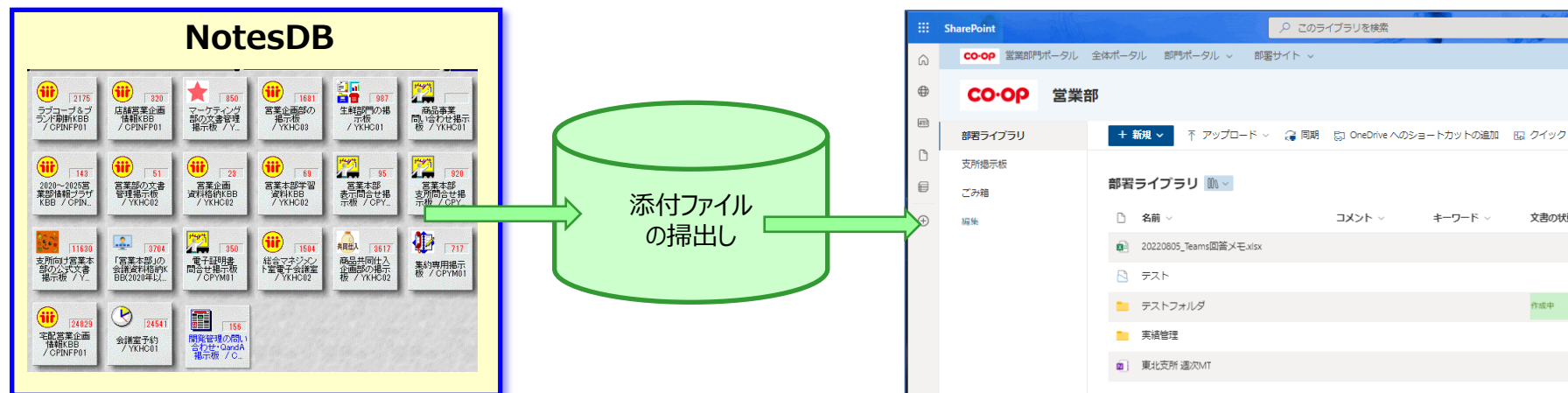
NotesDBの添付ファイルをTドライブ用部署ライブラリへ移行目的で、作業PC上などの任意フォルダーに添付ファイルを吐出し機能をNotes側で準備しその吐き出したファイルをSPO部署ライブラリへのデータ移行する方法で、基本、手動での移行となります。

但し、手動での移行は、登録日時・更新日時は移行操作日時なり、登録者・更新者も移行操作された方が設定されます。

この手動方法に回避策として、Microsoftの無償提供のデータ移行ツール(SPMT)を使ってデータ移行する手段がありますが、移行元と移行先のフォルダーマッピング作業が伴うため、実務を抱えている部署の方々には荷が重すぎると推測します。

【SharePoint 移行ツールの概要 (SPMT)】

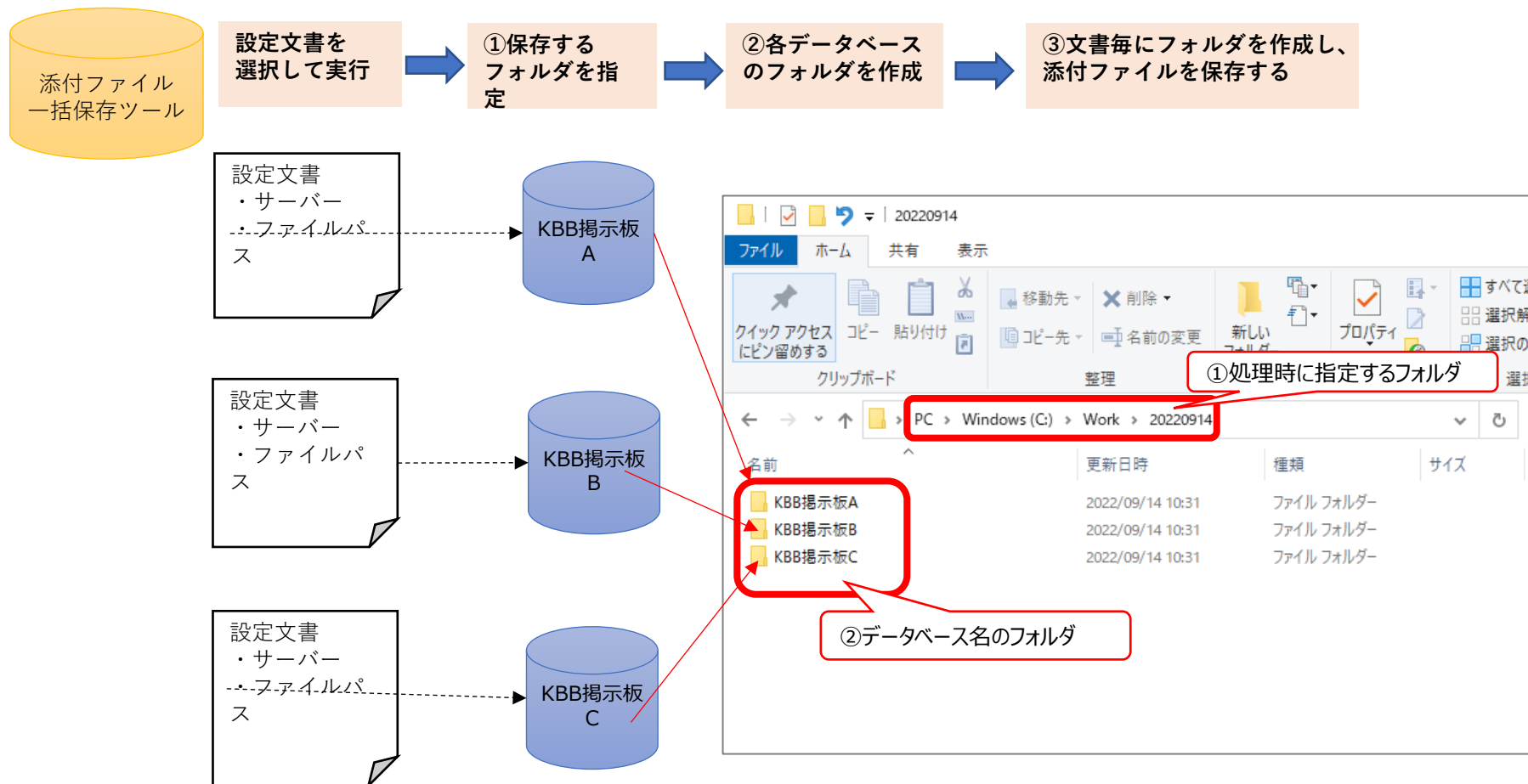
<https://docs.microsoft.com/ja-jp/sharepointmigration/introducing-the-sharepoint-migration-tool>



SPO基盤へのデータ移行について

(8) 添付ファイル保存ツール仕様

◆データベース構成と、保存先フォルダについて

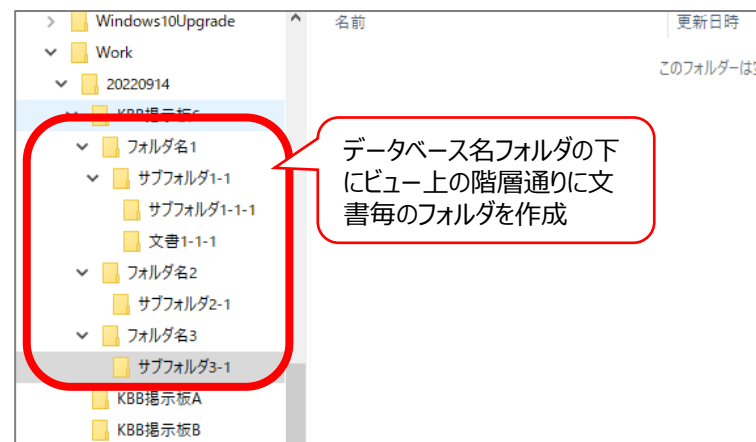
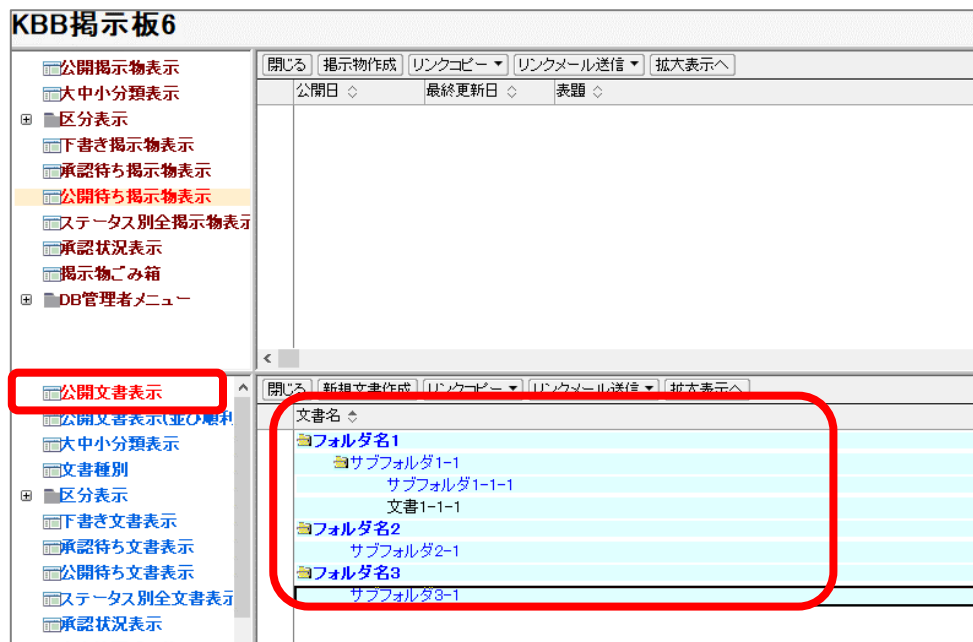


SPO基盤へのデータ移行について

添付ファイル保存ツール仕様 – 前ページからの続き

◆文書毎のフォルダ保存

対象文書は、公開文書表示ビューの「フォルダ」「サブフォルダ」「文書管理」文書となります。



添付ファイル保存ツール仕様 – 前ページからの続き

◆各文書の添付ファイル取得について

フォルダ	
フォルダ名	フォルダ名1
フォルダの説明	
 添付ファイル.xlsx	フォルダの説明欄の添付ファイルをすべてダウンロードする

KBB掲示板6	
フォルダ名1 > サブフォルダ1-1	
フォルダ	
フォルダ名	サブフォルダ1-1
フォルダの説明	
 添付ファイル.txt	フォルダの説明欄の添付ファイルをすべてダウンロードする

文書管理			
公式文書			
公開開始日	2022/09/14		
システム管理番号			
発信番号			
版管理			
発信者	東棟15階 管理者	発信部門	日本冶金工業製造技術部鋼板技術T

タイトル	文書1-1-1		
本文			
 添付ファイル.xlsx	本文・添付ファイル欄の添付ファイルをすべてダウンロードする		
添付ファイル			
 議事録xxxx.docx			

SPO基盤へのデータ移行について

添付ファイル保存ツール仕様 – 前ページからの続き

◆データベースの画面

The screenshot illustrates the process of selecting a database for data migration. The main window shows a table of databases with columns for Server, File Path, and Title. A red box highlights the '添付ファイル一括保存処理(選択文書)' button. A red arrow points from this button to a 'フォルダ選択' (Folder Selection) dialog box. This dialog shows a list of folders under the 'Data' location, with 'workspace' selected. Another red arrow points from the 'workspace' folder to a '確認' (Confirmation) dialog box. This dialog asks for confirmation to start the migration process, displaying the save path 'C:\Work\20220914_3'. A red box highlights the 'はい(Y)' (Yes) button, with a red arrow pointing to the text '処理開始' (Start Processing).

添付ファイル一括保存ツールのすべての文書
01添付ファイル一括保存処理(選択文書)

Server	File Path	Title
East15/gatecity	work\cis\ino\kbb_01.nsf	KBB掲示板1
East15/gatecity	work\cis\ino\kbb_02.nsf	KBB掲示板2
East15/gatecity	work\cis\ino\kbb_06.nsf	KBB掲示板6

設定文書
選択

サーバー : 『East15/gatecity』
ファイルパス : 『work\cis\ino\kbb_06.nsf』
データベース名 : 『KBB掲示板6』

フォルダ選択

ファイルの場所(D): Data

名前	更新日時	種類
autocorr	2019/04/23 9:59	ファイル フォルダ
domino	2019/04/23 10:01	ファイル フォルダ
gtrhome	2022/09/08 10:02	ファイル フォルダ
Help	2019/10/07 9:58	ファイル フォルダ
IBM_CredStore	2019/10/21 10:02	ファイル フォルダ
IBM_TECHNICAL_SUPPORT	2022/09/13 11:17	ファイル フォルダ
ids	2022/02/10 9:44	ファイル フォルダ
mail	2022/05/17 13:08	ファイル フォルダ
properties	2019/04/23 10:02	ファイル フォルダ
theme	2019/04/23 10:01	ファイル フォルダ
W32	2019/04/23 10:01	ファイル フォルダ
work	2022/09/13 10:26	ファイル フォルダ
workspace	2022/09/13 11:17	ファイル フォルダ

ディレクトリ(D): OK キャンセル

確認

? 添付ファイル一括保存処理を開始します。
よろしいですか?
保存先: C:\Work\20220914_3

はい(Y) いいえ(N)

処理開始

移行・リリースに向けた方針説明会の感想

説明される方々の話は解りやすかったのですが、資料が漠然的であったためか、説明系のチャットでも上がっていましたが、やはり、

- ・SharePointとはの理解が浅く、用語「サイト、リスト、ライブラリ、承認の要求など」がどういう物かよく解らない
⇒サイト管理者向けの教育(マニュアルなどの準備、勉強会や説明会の開催)の検討(木本さん、浅香さん)
- ・「Tドライブ」や「Notesの添付ファイル」のSPOへの手動移行は、事務方の実業務と平行作業の実施は現実的なのか。
- ・部門単位に数名にて「OneDrive」同期によるファイルのアップロードとしているが、上長から実務を考慮した作業依頼が必要
⇒限定した方々だけの作業でないとセキュリティ面で課題有り(木本さん) ※移行元FSにadmin権限に付与が必要
- ・ツールなどでの直接移行をCISに依頼できないのか？
⇒セキュリティ面、リソース面で課題有り(木本さん) ※移行元FSにadmin権限に付与が必要

【事務方の作業概要】

①移行ファイルの選定

⇒更新日時が直近数年間の物、永年保存しなければいけない物、古い物でも頻繁に閲覧する必要なファイルなどの選定

②選定したファイルの移行先の確定

⇒選定したフォルダー(ファイル)を、どの部署ライブラリのどのフォルダーへ移行するのか一覧の作成

※このマッピング作業は、「Tドライブ」、「Notesの添付ファイル」が対象の一覧

③移行作業

⇒「Tドライブ」のファイルは「②」で作成した一覧に従い、「OneDrive」へ複写

★【参考】②で作成した一覧が有れば、MS推奨SPMTのデータ移行時にマッピング設定をすれば応可能
マッピング設定も上記一覧よりSPMT用に生成が可能でミスや漏れの無いデータ移行が可能

⇒「Notes」の添付ファイルは吐出しツールにて、作業PCの作業フォルダーへ出力

出力したファイルで不要なファイルの削除（アイコンファイルなど）

不要ファイル削除後に、「②」で作成した一覧に従い、「OneDrive」へ複写

★【参考】②で作成した一覧が有れば、データ移行時にマッピング設定をすればMS推奨SPMTで対応可能
マッピング設定も上記一覧よりSPMT用に生成が可能でミスや漏れの無いデータ移行が可能

※【懸念点】手動移行はツールでの移行とは異なり、データ移行ログが取得できないため、あくまで目視での確認になる